

【PLAN】

総合戦略掲載	×	過疎計画掲載	○
--------	---	--------	---

【DO】

(単位：円)

[illegible]

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1（「手段」をもとに設定）				指標名：修繕公園施設数				指標の求め方：修繕公園施設数									
成果指標 1（「成果」をもとに設定）				指標名：計画内における修繕公園施設進捗率				指標の求め方：修繕公園施設延べ数 / 計画施設数									
				第 1 次実施 3 力年計画				第 2 次実施 3 力年計画				第 3 次実施 4 力年計画					第 7 期 総合計画
				第 1 年次 (3年度)	第 2 年次 (4年度)	第 3 年次 (5年度)	実施 3 力年 合 計	第 4 年次 (6年度)	第 5 年次 (7年度)	第 6 年次 (8年度)	実施 3 力年 合 計	第 7 年次 (9年度)	第 8 年次 (10年度)	第 9 年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施 4 力年 合 計	
事業 業務 事業 評価	指標	活動指標 1 (単位/箇所)	計画値	3	3	3		3	3	3		3	3	3	3		
		実績値	3	4	8		6										
	成果指標 1 (単位/%)	計画値	-	-	-		-	40	60		70	80	90	100			
		実績値	-	-	-		-										
	評価内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					達成されている										
		事業の成果 (成果指標をもとに評価)					上がっている										
		事業の効率性 (事業費に対する成果)					あまり上がって いない										
		総合評価					問題がある										
		総合評価の判断 理由または指標 の実績値に関する 自己分析		自己分析： 3公園の3基の 遊具について修 繕を行ったが、 今後、点検の結果に 基づき、状況に 応じて次年度以降、 予算要求していき たい。	自己分析： 4公園の4基の 遊具について修 繕を行い、3公園 3基の遊具につ いて撤去を行っ たが、遊具使用 中に事故が起き てしまったこと から、再発防止 のため春先の公 園開放に向けた 遊具の目視点検 をこれまで以上 にしっかりと行 っていききたい。 合わせて遊具の 修繕についても 時期をなるべく 早めて発注して いききたい。今 後も点検の結果 に基づき、状況 に応じて次年度 以降、予算要求 していきたい。	自己分析： 6公園の8基の 遊具について修 繕を行った。遊 具の点検時期に ついて点検業者 と調整を行った が7月の予定と なったため春先 の遊具開放時に は、昨年の点検 結果も踏まえ、 職員による確認 を行い、遊具の 開放を行った。	判断理由： 公園施設長寿命 化計画を基本と するが、前年の 点検結果を踏ま え予算要求を行 い、より安全な 施設の利用が出 来るよう事業を 進めているが、 令和4年度に遊 具使用中に事故 があったことから 「問題がある」 とした。	自己分析： 5公園の6基の 遊具について修 繕を行った。遊 具の点検時期に ついて点検業者 と調整を行った が昨年同様7月 の予定となった ため春先の遊具 開放時には、昨 年の点検結果も 踏まえ、職員に よる確認を行 い、遊具の開放 を行った。	自己分析： 自己分析： 自己分析：	判断理由： 自己分析： 自己分析： 自己分析：	自己分析： 自己分析： 自己分析：	自己分析： 自己分析： 自己分析：	自己分析： 自己分析： 自己分析：	判断理由： 自己分析： 自己分析： 自己分析：			
	今後の方向性						現状のまま継続										
方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)			R5： 令和5年度に公園施設長寿命化計画の見直しを行っているが、施設数も多く、老朽化も進んでおり、維持管理には、費用が増大する傾向である。利用状況やニーズも踏まえ施設の在り方について検討が必要であることから「現状のまま継続」とする。				R8：				R10：						

【PLAN】

総合戦略掲載	×	過疎計画掲載	×
--------	---	--------	---

【DO】

(単位：円)

[illegible]

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1（「手段」をもとに設定）			指標名：協力団体の数				指標の求め方：実施団体の数（予定箇所数：全 11 箇所）									
成果指標 1（「成果」をもとに設定）			指標名：協力団体の数				指標の求め方：実施団体の数（協力団体が増えることで地域コミュニティの活性化が図られ、協働の理解が深まった成果と捉えられることから活動指標と同じ指標とした）									
			第 1 次実施 3 カ年計画				第 2 次実施 3 カ年計画				第 3 次実施 4 カ年計画					第 7 期 総 合 計 画 計
			第 1 年次 (3年度)	第 2 年次 (4年度)	第 3 年次 (5年度)	実施 3 カ年 計	第 4 年次 (6年度)	第 5 年次 (7年度)	第 6 年次 (8年度)	実施 3 カ年 計	第 7 年次 (9年度)	第 8 年次 (10年度)	第 9 年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施 4 カ年 合 計	
事業 評価	指 標	活動指標 1 (単位/団体)	計画値 11	11	11		11	11	11		11	11	11	11		
		実績値	11	10	10		10									
	成果指標 1 (単位/団体)	計画値	11	11	11		11	11	11		11	11	11	11		
		実績値	11	10	10		10									
	評 価 内 容	総 合 評 価 の 判 断 理 由 又 は 指 標 の 実 績 値 に 関 す る 自 己 分 析	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)				ほぼ達成されている									
			事業の成果 (成果指標をもとに評価)				上がっていない									
			事業の効率性 (事業費に対する成果)				変わらない									
			総合評価				普通である									
				自己分析： 公園の草刈り作 業を町内会単位 で行って貰って いるところ、町 内における活動 人員の確保や草 刈り面積の見直 し等課題があり 、今後、町内会 に協力要請する 中で改善が必要 と考える。	自己分析： 昨年の協力団体 が11団体だった のに対し人員不 足により1団体 減って10団体と なってしまった ため、対策とし て、例えば協力 団体で行う草刈 面積を縮小し、 その分公園の維 持管理委託の草 刈面積を増やす ことで協力団体 の負担を軽減す るといった作業 負担を減らすよ うな方法を考え 、人手不足で協 力を断念せざる を得ない町内会 に提案するとい ったことも視野 に入れた改善が 必要と考えらる。	自己分析： 昨年同様10団体 の実施となっ ており昨年は協 力団体の作業負 担を減らす方法 の提案が課題と なっていたが、 それでも10町 内会の方々が公 園の草刈を実 施して下さった ことを踏まえ「 普通である」と した。	自己分析： 昨年同様10団体 の実施となっ ており協力団体 の作業負担を減 らす方法の提案 が課題となっ ている。また、 シルバー人材セ ンターにより市 内公園の維持管 理委託を実施し ているが人手不 足でもあり作業 増については、 懸念がある。以 上のことから作 業負担を減らす 方法が委託方法 の検討が必要あ る。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：				
今後の方向性						現状のまま継続										
方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)		R5： 「町内会による街区公園管理事業」については、町内会の協力を得て街区公園の管理を行うことで、市民と協働のまちづくりの意識を高めてもらうとともに、地域住民に、親しまれる公園を目指していくことは市にとっても経費削減に繋がり、市民にとっても引き続き公園に親しみを持っていただく必要があることから「現状のまま継続」とした。				R8：				R10：						

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1（「手段」をもとに設定）				指標名：工事実施率				指標の求め方：実施箇所/予定箇所									
成果指標 1（「成果」をもとに設定）				指標名：整備率				指標の求め方：整備面積／整備計画期間の整備									
				第 1 次実施 3 力年計画				第 2 次実施 3 力年計画				第 3 次実施 4 力年計画					第 7 期 総合計画
				第 1 年次 (3年度)	第 2 年次 (4年度)	第 3 年次 (5年度)	実施 3 力年 合 計	第 4 年次 (6年度)	第 5 年次 (7年度)	第 6 年次 (8年度)	実施 3 力年 合 計	第 7 年次 (9年度)	第 8 年次 (10年度)	第 9 年次 (11年度)	第 10 年次 (12年度)	実施 4 力年 合 計	
事業 評価	指標	活動指標 1 (単位/%)	計画値	100	0	0		0	0	0		0	0	0	100		
			実績値	100	-	-		-									
		成果指標 1 (単位/%)	計画値	0	0	0		0	0	0		0	0	0	100		
			実績値	100	-	-		-									
	評価内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					あまり達成されていない										
		事業の成果 (成果指標をもとに評価)					変わらない										
		事業の効率性 (事業費に対する成果)					変わらない										
		総合評価					普通である										
		総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析		自己分析： 令和 2 年に、国は、市の要望に基づき砂川遊水地河川敷を中心とした砂川オアシスパーク地区に対して、河川法等の規定による都市・地域再生等利用区域の指定を行ない、「砂川地区かわまちづくり計画」に基づき、官民協働により観光資源としての利活用を推進していくこととなり、開発局滝川河川事務所が、遊水地の中核施設である遊水地管理棟駐車場拡張整備の実施に併せて、都市公園オアシスパークふれあい広場に、公園利用者のための駐車場整備を行い、利活用の推進が図られた。	自己分析： 令和 4 年度は事業を実施していないことから、公園整備事業としての評価には繋がらないが、公園施設長寿命化計画に基づき、定期点検等を行い適正な管理に努め、必要に応じて整備を進めていく。	自己分析： 平成25年度に策定した公園施設長寿命化計画(計画期間H27～H36)に基づき、施設の維持修繕を行っているが(実績額は公園施設調査修繕事業に計上)、最新の公園遊具点検結果を踏まえ、緊急性を要する 2 基の遊具を更新した(更新のため実績額は公園整備事業に計上)。計画値が「0」のため、活動指標、成果指標共に数値は「-」と記載した。 今後は、現状の公園利用状況や配置、維持管理費等を踏まえ、将来の公園整備のあり方について検討するに当たり、令和 5 年度に策定した公園施設長寿命化修繕計画(計画期間R6～R15)における公園改修・修繕の年次計画に基づき、施設や遊具の更新を実施していく。	判断理由： 令和 5 年度に策定した公園施設長寿命化修繕計画の修繕年次計画で算出した、公園施設毎のライフサイクルコストを考慮し、地域のニーズを踏まえた都市公園の新たな利活用や集約化に対応するため、都市公園ストック再編事業に取り組んでいくことを想定し、庁内において未利用地対策等を検討し、基本的な考えが整理された時点から、計画の改定と整備事業を進めていくことが最善と判断したことから、総合評価は「普通である」と判断した。	自己分析： 公園施設長寿命化計画(計画期間R6～R15)に基づき施設の維持修繕を行っており、令和 6 年度は遊具等の更新はないが、毎年行う遊具点検結果に基づき、公園長寿命化計画にとらわれず、利用者の安全のため必要に応じて整備を進めていく。	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：		
	今後の方向性					現状のまま継続											
方向性の判断理由改善、改革の内容(R5、R8、R10)		R5： 今後の都市公園のあり方の検討について、令和 8 年度から義務教育学校の開校などに伴い、地域生活拠点区域は南地区への移行が想定されること、また、学校跡地等の利用についても検討を進める時期に差し掛かってきていることもあり、住宅整備状況、市街地の未利用地の割合の増減等を踏まえた上で、じっくりと公園機能の再編・集約による都市公園の構築に向けた検討を進め、都市公園ストック再編事業を実施するための取り組みを継続していくこととする。				R8：				R10：							

【PLAN】

総合戦略掲載	×	過疎計画掲載	○
--------	---	--------	---

【DO】

(単位：円)

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画					第7期 総合計画
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計	
投入された事業費の推移	国費	計画額				0				0					0	0
		予算計上額				0				0					0	0
		実績額				0				0					0	0
	道費	計画額				0				0					0	0
		予算計上額				0				0					0	0
		実績額				0				0					0	0
	地方債	計画額				0				0					0	0
		予算計上額				0				0					0	0
		実績額				0				0					0	0
	その他	計画額				0				0					0	0
		予算計上額				0				0					0	0
		実績額				0				0					0	0
	一般財源	計画額	4,155,000	3,757,000	3,757,000	11,669,000	5,156,000	4,316,000	4,029,000	13,501,000	4,029,000	3,902,000	3,902,000	3,775,000	15,608,000	40,778,000
		予算計上額	4,130,000	4,641,000	5,705,000	14,476,000	5,156,000	5,557,000		10,713,000					0	25,189,000
		実績額	4,152,433	4,345,774	5,531,713	14,029,920	5,135,575			5,135,575					0	19,165,495
	事業費合計	計画額	4,155,000	3,757,000	3,757,000	11,669,000	5,156,000	4,316,000	4,029,000	13,501,000	4,029,000	3,902,000	3,902,000	3,775,000	15,608,000	40,778,000
		予算計上額	4,130,000	4,641,000	5,705,000	14,476,000	5,156,000	5,557,000	0	10,713,000	0	0	0	0	0	25,189,000
		実績額	4,152,433	4,345,774	5,531,713	14,029,920	5,135,575	0	0	5,135,575	0	0	0	0	0	19,165,495
	事業費予算の内容		報償費3,387千円 原材料費770千円	報償費3,871千円 原材料費770千円	報償費4,945千円 原材料費760千円		報償費4,396千円 原材料費760千円	報償費4,797千円 原材料費760千円								
	前年度予算との比較 (増減理由)		報償費の増 原材料費の増	報償費の増 原材料費の増	報償費の増 原材料費の減 (購入株数の減 (10,000株⇒ 9,500株△500株))		報償費の減(新規面積の減)	報償費の増(新規面積の増)								
実績との比較 (増減理由)		報償費の増 原材料費の増	報償費の減	報償費の減		報償費の減										

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1（「手段」をもとに設定）	指標名：花の苗の配付数量	指標の求め方：配付株数
成果指標 1（「成果」をもとに設定）	指標名：植樹枹植栽面積の規模の確保	指標の求め方：各年度面積/令和元年面積

				第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画					第7期 総合計画
				第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計	
事業 評価	指標	活動指標1 (単位/株)	計画値	10,000	10,000	10,000		10,000	10,000	10,000		10,000	10,000	10,000	10,000		
			実績値	10,000	10,000	9,500		9,500									
		成果指標1 (単位/%)	計画値	124	118	118		114	114	110		110	106	106	102		
			実績値	123	131	138		139									
	評価内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					ほぼ達成されている										
		事業の成果 (成果指標をもとに評価)					上がっている										
		事業の効率性 (事業費に対する成果)					少し上がっている										
		総合評価					普通である										
		総合評価の判断理由 または指標の実績値に関する 自己分析	自己分析： 花の苗配付事業は、参加団体の 構成人数が減少傾向にある中、 周辺施設への植栽は確実に履行 されており、植樹樹植栽事業の 参加団体数は大きな増減はない が、植樹樹の面積は堅調に増加 していることから、緑化意識の 高揚は図られ、美しい景観が形 成されています。	自己分析： 花の苗配付事業は、参加団体の 構成人数が減少傾向にある中、 周辺施設への植栽は確実に履行 されており、植樹樹植栽事業は、 平成13年事業開始当初に6団体 (約400㎡)で実施されたが、令和4 年度は19団体(約3,200㎡)の申 請があり、面積は増加している ことから、美しい街並みの広が るまちづくりは推進されている。	自己分析： 花の苗配付事業は、石山中学校 が閉校となり、配付箇所数が減 少し、参加団体の構成人数も減 少傾向にある中、周辺施設への 植栽は確実に履行されており、 植樹樹植栽事業は、平成13 年事業開始当初に6団体(約 400㎡)で実施されたが、令和 5年度は19団体(約3,300㎡) の申請があり、面積は増加して いることから、美しい街並みの 広がるまちづくりは推進されて いる。	判断理由： 花の苗配付事業は、令和8年に 小学校統合を控えていることか ら、参画施設数は減少すること となり、配付株数の減少が見込 まれるが、令和7年度までは現 状維持に努めることとする。植 樹樹植栽事業は、高齢化によ る参画休止団体があり、減少す ることが想定されるが、新規参 画団体もあることから、団体数 については横ばいであり、植樹 樹植栽面積は増加していること から、総合評価は「普通であ る」と判断した。	自己分析： 花の苗配付事業は、石山中学校 閉校にともない、配付箇所数が 減少しているが公共施設等への 植栽は確実に履行されている。 植樹樹植栽事業は、令和6年 度に報償金交付要綱を改定、世 帯も対象としたことから令和6 年度は19団体及び1世帯で約 3,400㎡の申請があり、面積は 増加していることから、美しい 街並みの広がるまちづくりは推 進されている。	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：		
			今後の方向性					現状のまま継続									
	方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)			R5： 本事業の目的は緑化意識の高揚と地域コミュニケーションの増進であり、行政と市民との協働事業として非常に意義深いものであることから、団体との情報共有を図っていきたい。 また、直近3年度の実績は微増であるが、各団体において新規参加者の確保に苦慮していることから、緑化運動の継続及び維持負担軽減を図るため、降雨、降雪等による客土の流失が顕著な植樹樹については、購入土の支出を抑えるため、管理が容易なプランターでの栽培を試みるなど、負担感を低減させたり、地域の事情に応じるべく、事務局として現状把握に努めていきたい。				R8：				R10：					

【PLAN】

総合戦略掲載	×	過疎計画掲載	○
--------	---	--------	---

【DO】

(単位：円)

[illegible]

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1（「手段」をもとに設定）	指標名：市からの交付率	指標の求め方：交付金額/予算金額
成果指標 1（「成果」をもとに設定）	指標名：開催回数	指標の求め方：実績

				第 1 次実施 3 カ年計画				第 2 次実施 3 カ年計画				第 3 次実施 4 カ年計画					第 7 期 総合計画
				第 1 年次 (3年度)	第 2 年次 (4年度)	第 3 年次 (5年度)	実施 3 カ年 合 計	第 4 年次 (6年度)	第 5 年次 (7年度)	第 6 年次 (8年度)	実施 3 カ年 合 計	第 7 年次 (9年度)	第 8 年次 (10年度)	第 9 年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施 4 カ年 合 計	
事業 評価	指標	活動指標 1 (単位/%)	計画値	100	100	100		100	100	100		100	100	100	100		
			実績値	0	0	100		100									
		成果指標 1 (単位/回)	計画値	1	1	1		1	1	1		1	1	1	1		
			実績値	0	0	1		1									
	評価内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					達成されている										
		事業の成果 (成果指標をもとに評価)					変わらない										
		事業の効率性 (事業費に対する成果)					変わらない										
		総合評価					普通である										
			総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析： 新型コロナウイルス感染症のまん延がつづき、多数の人が接触する可能性のある大規模イベントが開催できる社会情勢にないことから、令和 3 年度の開催を中止としたことについて、適切な判断であった。	自己分析： 新型コロナウイルス感染症が収束しない中で、多数の人が接触し、感染する可能性が極めて高い大規模イベントを開催する社会情勢にはなかったことから、令和 4 年度の開催中止は適切な判断であった。	自己分析： 緑あふれる公園都市推進市民会議の主催で、5 月 21 日（日曜日）、雨天のため北光公園から地域交流センター「ゆう」での開催とし、午前 11 時に開会宣言を行い、ステージにおいてキャラクターショー、よさこい踊り、バラエティショー等が行われた。また、会場では花の苗の無料配布や J C 広場等が催され多くの来場者でにぎわい、盛会のうちに終了した。雨天時の対応として、開催場所の変更の周知を、当日午前 7：30 から、広報車両 2 台、ホームページ、SNS、電話等により、迅速な対応を図ることができたが、課題としては、ステージ以外の売店の販売時間等の詳細についても周知を図り、来場者への配慮に努めていくこととする。	判断理由： 第 49 回緑と花の祭典は令和元年度以来 4 年ぶりの開催となり、雨天のため地域交流センター「ゆう」ステージにおいて、キャラクターショー、よさこい踊り、バラエティショー等が行われた。また、会場では花の苗の無料配布、地場産品の出店、J C 広場等が催され、当日の来場者数は約 2,000 人となり、大きなトラブルもなく、盛会のうちに終了したことから、総合評価は「普通である」と判断した。	自己分析： 緑あふれる公園都市推進市民会議の主催で、5 月 19 日（日曜日）北光公園での開催し、午前 10 時に開会宣言を行い、メインステージにおいてキャラクターショー、砂川キッズ・ジャズスクール、砂川市民劇団心呂座、よさこい踊り、バラエティショーが行われ、第 50 回を記念し、第 2 ステージにおいて砂川小学校、砂川中学校、砂川高校による吹奏楽演奏会が行われた。また、花の苗の無料配布、ヨット・カヌーの試乗会等が催され約 3,000 人の来園者でにぎわい、盛会のうちに終了した。	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：		
		今後の方向性					現状のまま継続										
	方向性の判断理由改善、改革の内容 (R5、R8、R10)		R5： 春の砂川市の行事として市内外に定着しており、令和 6 年度は節目となる第 50 回の開催を控えているが、主催者の市民会議における現在の課題として、活動内容が緑化推進から観光振興へと移行していること、会議構成団体内の高齢化によるスタッフ及び参加団体の減少傾向が顕著であることから、市民会議の存続の問題も抱えており、今後の市民会議の運営体制を注視しつつ、交付金による適切な支援を継続していきたい。				R8：				R10：						